

平成22年度 予算

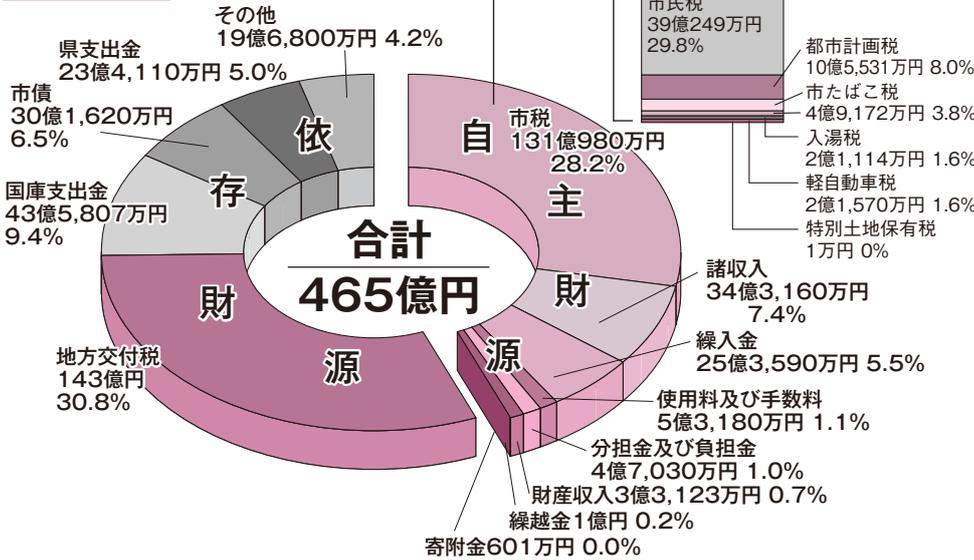
やさしさと活力 一体感ある地域づくり

総額 736億2,921万円のあらまし

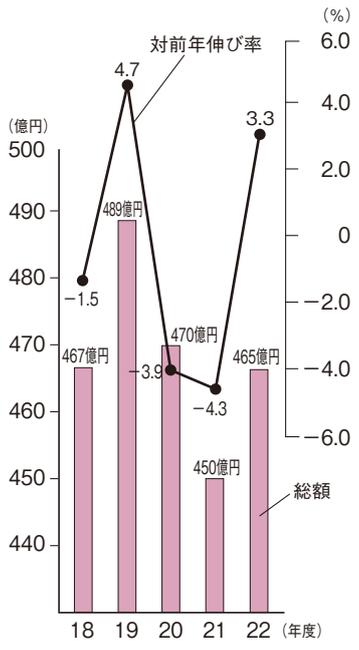
市では、3月1日に開会する高山市議会定例会に一般会計465億円、特別会計・企業会計271億円の平成22年度予算案を提案します。

市町村合併から6年目を迎えた平成22年度は、第七次総合計画「後期基本計画」がスタートする重要な年になります。特に人口減少・少子高齢社会を迎え、子育て環境の充実などを重点に、一層の市民福祉の向上と一体感のある地域づくりを進めます。

歳入



●一般会計当初予算の推移



3つの種類がある 市の予算

市の会計には、税金や国・県からの交付金・補助金、市債などを財源として、一般的な行政の経費を扱う「一般会計」と、特定の事業を進めるため、使用料など特定の収入を充てて独立した経理を行う「特別会計」「企業会計」があります。

これらの収入と支出を取りまとめた冊子が「予算書」と呼ばれるもので、市長が予算案を作成し、市議会がそれをチェック・審議して決定します。

後期基本計画の スタートの年に

平成22年度は、26年度までを計画期間とする高山市第七次総合計画「後期基本計画」のスタートの年となります。今年度の予算編成にあたっては、高山市の将来都市像である「やさしさと活力にあふれるまち「飛騨高山」」の形成を目指し、誰もがやさしさを実感し、安全で安心して快適に暮らせるユニバーサルデザインの視点に立ったバリアフリーのまちづくりを進めていくこととしています。特に、子どもを産み育てやすい環境づくり、教育環境の整備、防災対策、環境対策、産業の活性化対策、健康・福祉対策、地域の振興対策など市民福祉